

# 結の故郷奨学金

## 今後の新規募集について



2019.7.30

定例教育委員会資料

# 今後の事業の方向性

## 新規募集を来年度から中止

⇒ 今年度で新規申請者の募集終了

※令和元年度新規・継続貸与者については卒業するまでは  
継続して貸与

- ・貸与最終年度：令和 4 年度(2022年度)
- ・返済終了年度：令和15年度(2033年度)

## 新規募集中止の理由

- ① 奨学金が帰郷の大きな要因となっていない
- ② 他の奨学金制度で代替可能

## 新規募集中止の理由

① 奨学金が帰郷の大きな要因となっていない

② 他の奨学金制度で代替可能

# 奨学金が帰郷要因となっているか？

## 結の故郷奨学金制度の目的

保護者の経済的負担を軽減するとともに、ふるさと大野への帰郷を促進する。

## 目的の達成状況

### 卒業生の帰郷実績（監査資料より）

- ・平成28年3月卒業生 4人のうち 帰郷 2人
- ・平成29年3月卒業生14人のうち 帰郷 7人
- ・平成30年3月卒業生21人のうち 帰郷14人
- ・平成31年3月卒業生33人のうち 帰郷17人

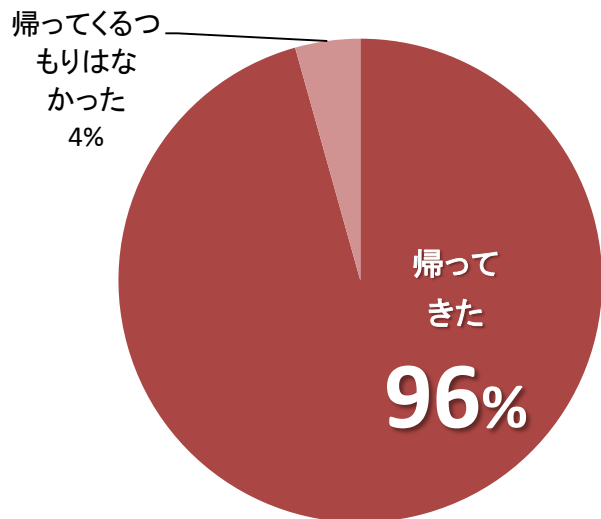
卒業生の **5割超**  
が帰郷している。

# 奨学金が帰郷要因となっているか？

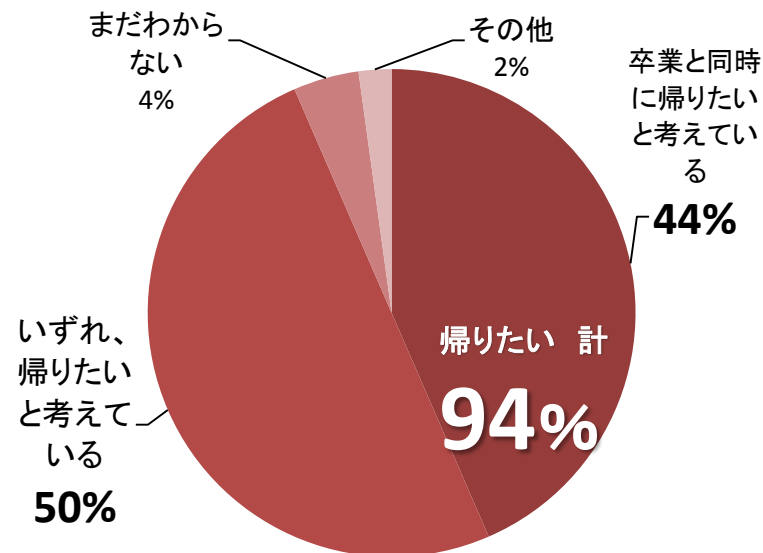
⇒ 「奨学金が無くても大野へ帰る」との回答が **9割超**

Q. 結の故郷奨学金を受けなくても、  
大野へ帰ってきましたか／帰りたいと思いますか。

卒業生



在学生

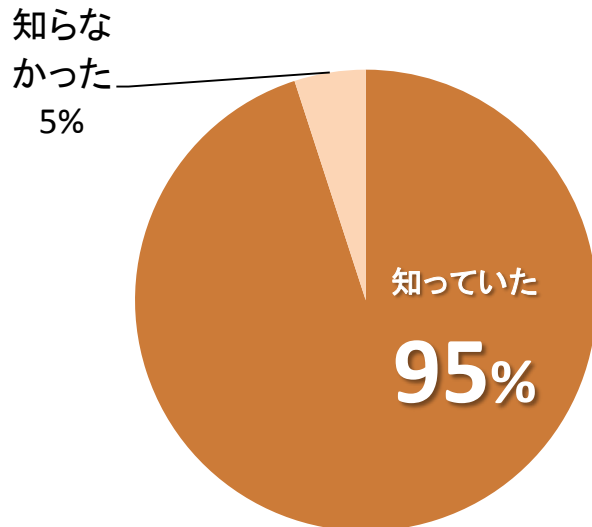


# 奨学金が帰郷要因となっているか？

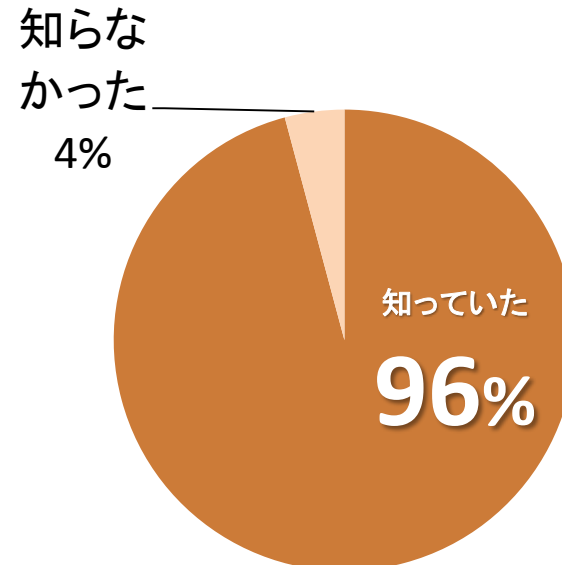
⇒ 帰郷による返済額の減免制度は、奨学生に認知されている。

Q. 結の故郷奨学金には、帰郷や結婚によって返済額の減免制度があることを知っていましたか。

卒業生



在学生

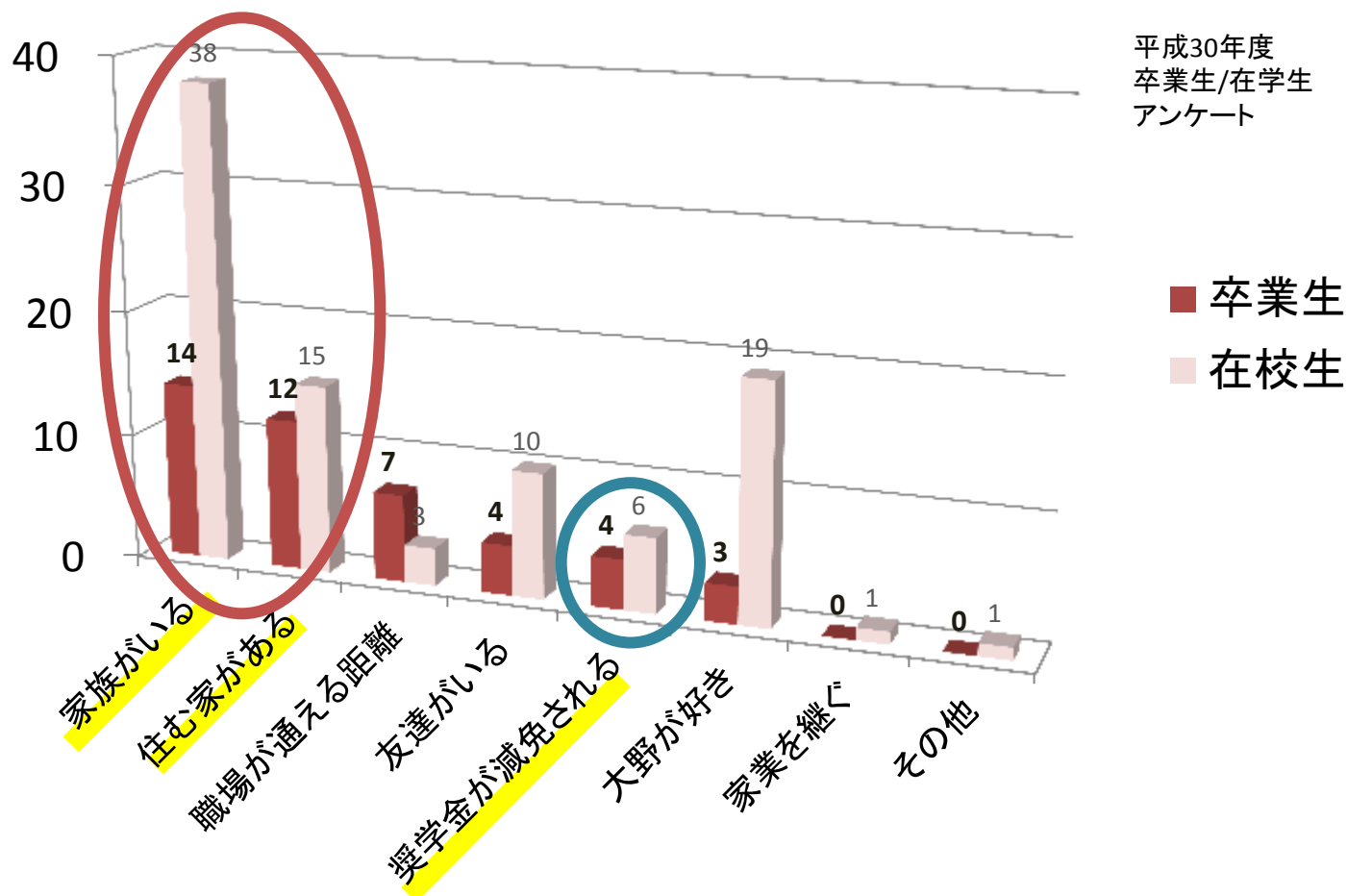


平成30年度 卒業生/在学生アンケートより

にもかかわらず…

大野に帰ってきた／帰りたい理由は  
「家族がいるから」、「住む家があるから」が多数

⇒「返済額減免」は帰郷の大きな要因となっていない。



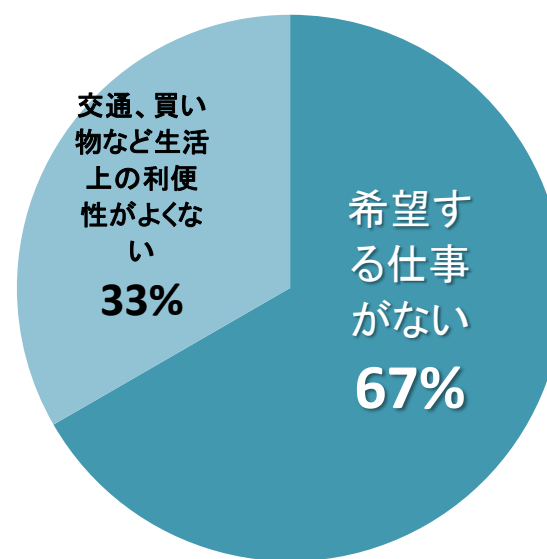
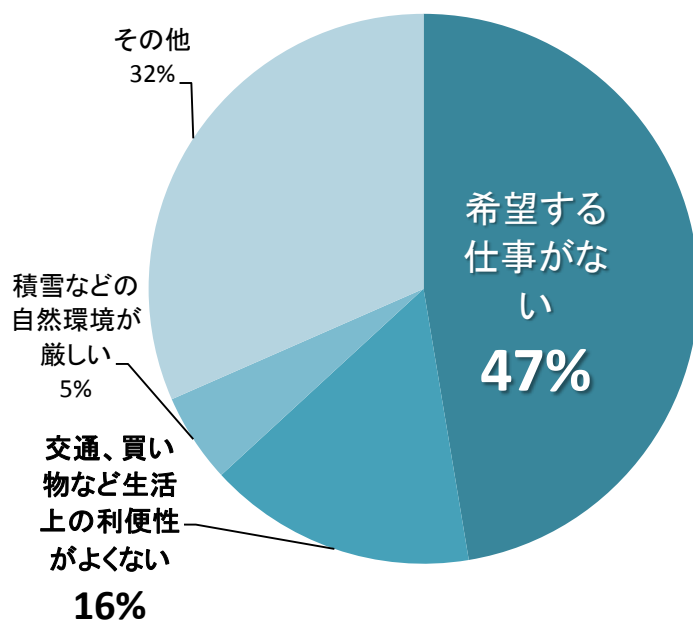


大野に帰ってこなかった／帰りたくない理由は  
「仕事」、「生活上の利便性」が多数を占めた。

Q. 大野に帰ってこなかった／帰りたくないと思わない理由として、あてはまるものを選んでください。

### 卒業生

### 在学生



## 新規募集中止の理由

① 奨学金が帰郷の大きな要因となっていない

② 他の奨学金制度で代替可能

# 大学等の修学支援新制度

※制度詳細は別紙 **資料1**

⇒ 国主導の高等教育無償化が加速



## 給付型奨学金（2017年度～、2020年度より要件緩和・金額拡充）

- 2017年度に返済不要の給付型奨学金が創設、2018年度から本格実施。
- 住民税非課税世帯に加え、2020年度からは年収380万円未満の世帯にまで要件緩和（年収区分により給付額は異なる）
- 最大で月額4万円を支給 ⇒ 2020年度から最大月額7.58万円の支給に拡充（通学形態・国公私立により異なる）



## 授業料等減免（2020年度～）

- 2020年4月からは、低所得世帯の大学生らを対象に、大学などの授業料の減免制度がスタート
- 授業料減免は最大約70万円/年（住民税非課税世帯・私大の場合）

# 日本学生支援機構の貸与型奨学金の拡充

## 無利子奨学金枠の拡充

⇒近年、「有利子」から「無利子」への流れを加速

[2017年度貸与実績]

- ・ 第1種（無利子） 51.9万人 (+4.4万人)
- ・ 第2種（有利子） 81.5万人 (-2.9万人)

さらに、**2019年度は57万人**分を予算確保

参考：日本学生支援機構 奨学金例

区分		大学	短大・専門	
第1種 (無利子)	国公立	自宅	45,000円	45,000円
		自宅外	51,000円	51,000円
	私立	自宅	54,000円	53,000円
		自宅外	64,000円	60,000円
第2種 (有利子) ※ 第1種と併給可能	2～12万円で1万円単位で選択 (私大の医・歯・薬・獣学部は4万円上乗せ可能)			
入学時特別 増額貸与 (有利子)	10万円・20万円・30万円・40万円・50万円 から選択			

# 結の故郷奨学金の貸与額は十分か？

参考記事：高校生新聞online <http://www.koukouseishinbun.jp/articles/-/4978>

大学進学ニュース 大学生生活を教える

## 大学生の奨学金受給率が7年連続で減少 「貸与型」受給者の7割が返済に不安

2019.03.01



奨学金を受給している大学生の割合が7年連続で減少していることが、全国大学生活協同組合連合会が2月25日に発表した「第58回大学生生活実態調査」で分かった。

### 奨学金受給額は月平均5万7140円

調査は、2018年秋に行われ、30大学の10980人の回答を集計した。調査結果によると、何らかの奨学金を受給している学生は30.5%（自宅生は24.7%、下宿生は34.7%）で、7年連続で減少した。1カ月の平均受給金額は5万7140円（自宅生は平均5万2860円、下宿生は平均5万9090円）だった。

### 「貸与型」が大半、「給付型」はわずか

奨学金は、卒業後に返済が必要な「貸与型奨学金」と返済が不要の「給付型奨学金」に分けられる。調査結果によると、全体の25.4%が日本学生支援機構の貸与型奨学金を受給し、同機構以外の貸与型奨学金を受給している人も1.3%いた。一方、日本学生支援機構の給付型奨学金を受給している人は2.5%、同機構以外の給付型奨学金を受給している人は3.9%だった。大学生の奨学金の多くが貸与型奨学金であるのが現状だ。

奨学金の受給率は  
**減少傾向**  
(2018年:30.5%)

### 平均受給額

自宅生：5万2860円  
下宿生：5万9090円

### 結の故郷奨学金

自宅生：1万円  
下宿生：2万円

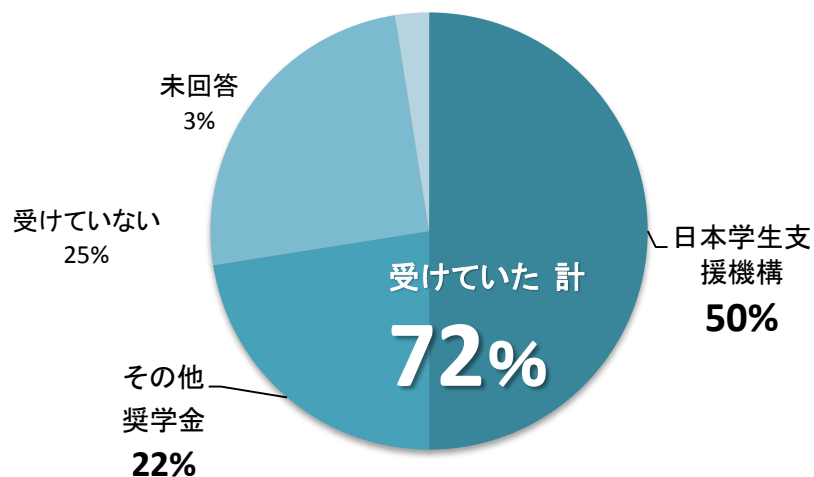
⇒貸与額に開きがある

# 結の故郷奨学金 以外の奨学金の併用状況

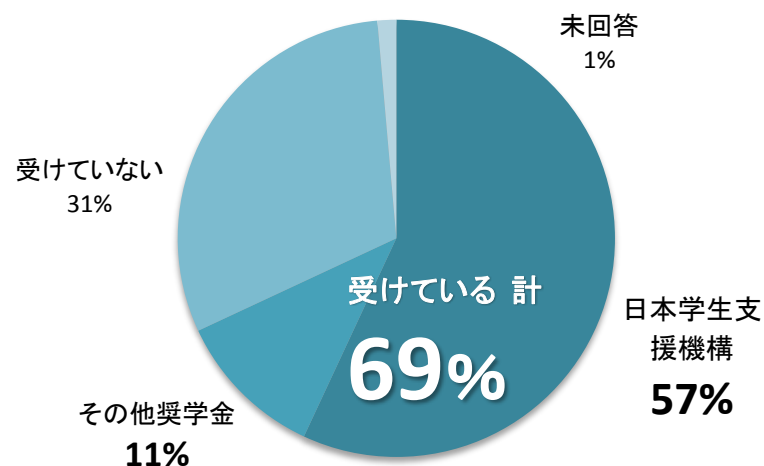
⇒約 **7割**が他の奨学金と併給している

Q. 結の故郷奨学金以外に、奨学金の貸与を受けていましたか／受けていますか？

卒業生



在学生



平成30年度 卒業生/在学生アンケートより

## 代替可能性まとめ

✓国による高等教育無償化が進んでいる。

✓日本学生支援機構の無利子枠も拡大傾向。

✓結の故郷奨学金の貸与額は、単独では十分ではない。

⇒国による高等教育無償化が進む中、奨学生の希望貸与額と差がある

結の故郷奨学金は、家計負担軽減の面でも存在意義が薄く、他の奨学金制度で十分代替可能と思料。

以上の理由から

## 来年度から新規募集中止 とすることとしたい

- ・ 今年度で新規申請者の募集終了し、来年度は新規募集を行わないこととする。
- ・ 現在の貸与決定者については、卒業するまで貸与を継続する。

### 結の故郷奨学金 運用想定

#### ● 令和4年度時点（2022年度）※貸与最終年度

貸与額 合計 154,380千円

#### ● 令和15年度時点（2033年度）※返済最終年度

減免額 合計 43,932千円

返済額 合計 110,448千円

※減免額は、R1年度以降の卒業者の半数が帰郷し、かつ婚姻しないと想定し、算出。